

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・小テストや復習を定期的に行うことで、知識・技能の向上と基礎的・基本的な計算技能の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・領域を超えた問題を苦手とする生徒が多い。特に関数の問題において、図形分野や日常生活と関連させた問題にふれる機会を多く設定する必要がある。
- ・数学に対して、苦手意識をもつ生徒が多い。問題の難易度を生徒に合わせ、成功体験を積ませる小テストや単元テストを行う必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	前年度より4ポイントほど上昇し、区の平均より1ポイントほど上回っている。		
第2学年	前年度よりわずかに上昇したが、区の平均より7ポイントほど下回っている。	前年度より1ポイントほど上昇したが、区の平均より3ポイントほど下回っている。	
第3学年	前年度より6ポイントほど上昇したが、区の平均より4ポイントほど下回っている。	前年度より、2ポイント正答率が上昇したが、区の平均より5ポイントほど下回っている。	前年度より、2ポイント下回っていて、区の平均より4ポイント下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をほとんど上回っている。図形の体積を求める問題の正答率が低かった。	目標値を全体的に上回っている。小数の計算やデータの読み取りの問題の定着ができていない。	目標値をほとんど上回っている。記述をするのに困難な生徒がいるようである。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を7ポイントほど下回っている。1次方程式の問題で特に正答率が低い。平面図形の問題では目標値を上回っている。	目標値を7ポイントほど下回っている。データの分析と傾向の問題で目標値を上回った。	目標値を7ポイントほど下回っている。方程式の文章題では目標値を下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を全体的に7ポイント程度下回っている。特に連立方程式の問題では目標値を大幅に下回っている。成績上位層と下位層の差が激しく出ている。	目標値から大きく離れたところが少なかった。しかし、証明の問題に関しては大きく下回った。苦手意識があると粘り強く考えることができない。	目標値に届いていない問題もあるが、上回っている問題も数問ある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
苦手意識のある分数や小数の計算を文字と合わせた中でできるように計算練習を積む。図形の範囲で平面図形と空間図形の特徴をつかませ、小テストなどで定着を図る。	分数の計算を因数に着目し、工夫して計算できるように指導をする。データの活用分野などで読み取る力を養う。	授業中のプリントや定期考査の解説を自分で作成する課題を通じて、説明する能力をあげる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや単元テストを活用して、知識・技能の定着を図る。繰り返し演習問題を行うことで、技能を高め、定着を図る	なぜ、どうしての質問を織り交ぜながら説明・発表活動の授業展開をしていく。理由や考え方などをテストやプリントなどで表現する機会を増やし、数学的に表現する力を伸ばす。	小テストを行うことで、達成感を持たせ、デジタル教科書等のICTを活用し主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習った時から時間が経てば経つほど、知識・技能の定着ができていないので、定期的に計算の復習をして、定着できるようにする。タブレットドリルを活用する。	問題の解き方を整理するプリントを活用して、数学的思考力を養う。数学的に正しい説明ができるように授業中に指導し、数学的表現を身に着けるようにする。	タブレットドリルを活用して、主体的に家庭学習に取り組む姿勢を身に着ける。2週間に1回程度ワークの回収をして、学習習慣の定着を目指す。